

## 学習動機づけの類型化と職業観に関する実証的研究

友納 艶花

九州女子大学人間科学部人間発達学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2018年10月24日受付、2018年11月28日受理)

### 要 旨

本研究の目的は、学習動機づけの類型化を試み、類型に於いての職業観の特徴を検討するとともに、学年によって差があるかどうかを検討することである。293名の女子大学生に質問紙調査を行った。クラスター分析の結果、学習動機づけは「内発動機優位群」「総合動機高群」「総合動機低群」「実利動機優位群」の4つの類型に分類された。因子分析の結果、職業観では7因子を得た。1年次は「総合動機高群」の出現率が高く、「対人関連志向」「公務員・教員志向」が有意に高いが、2・3年次は低下し、総合動機が低下する。3年次は現実的な認識から「事務関連志向」が強くなる。「心理的充足志向」では類型間有意差がみられず、社会貢献など心的満足感を求める職業観を持つ場合、動機づけが変わりにくいことが分かった。また、「総合動機低群」は学びが消極的で意欲が低く、2年次から職業との接続への教育支援と介入が望まれることが示唆された。

キーワード：女子大学生、学習動機づけ、職業観、類型化

### 問題と目的

文部科学省(2012)により、「大学改革実行プランにおいて、国が目指すべき社会には、高齢者・女性の参画が一層拡大した社会があり、そのため、大学および大学を構成する関係者には、主体的に学び、自らの人生と社会の未来を切り拓く学生の育成が求められる」と提示されている。

この主体的な学びと関連する概念に動機づけがある(神谷・田村・昭二・高野・水口、2014)。教育場面において、なぜ学習するのかという動機は極めて多様であるが、学習動機づけは「ある目標の達成に向かって、学習行動や学習と関わるさまざまな心(認知・感情など)の働きを開始し、方向づけ、維持させる一連の心理プロセス」と定義されている(黒田、2007)。

学習動機づけについては、国内外の多くの研究が知られている。従来の帰属理論(Heider、1958；大橋訳1978；Weiner、1990)、内発的動機付け理論(Deci&Ryan、1975；Harter、1981)、外発的動機づけ理論(Young、1961)、達成目標理論(Dweck、1986)、自己効力感理論(Bandura、1977)、自己決定理論(Deci&Richard、1995 櫻井監訳 1999)な

ど多様な研究が挙げられる。また、日本の研究では、概念化や尺度作成の検討などが盛んになっている(速水、1987;市川、1995;伊田、2001)。

その中、近年の国内の研究において、市川(2008)は、「内発・外発的学習動機は分かりやすいが、明確に分けられないようなものがある」と指摘した。トップダウン的に学習動機をとらえるのではなく、学習者から回答を収集し、似ていると思われるものを分類して整理し特徴づけるというボトムアップ的な方法で学習動機づけを「報酬志向」「関係志向」「充実志向」「訓練志向」「実用志向」「自尊志向」の6つに分類している(市川、2011)。そして、複数の次元(観点)を立ててそれを組み合わせた空間の中に位置づけしていく「次元化」手法を用いて、横の次元として学習による直接的な報酬をどの程度期待しているかを表す「学習の功利性」と縦の次元として学習の内容そのものを重視しているかどうかを表す「学習内容の重要性」という学習者視点から学習動機づけの実態をとらえる「2要因モデル」を提唱している。典型的な内発的動機づけとして「充実志向」、典型的な外発動機づけとして「報酬志向」を示している。しかしながら、学習動機づけの2要因モデルにある動機志向にはいくつかが複合して働いているものがある(市川、2008)と指摘し、今後検討する必要性を示した。

また、岡田(2010)は、小学生から大学生における学習動機づけを検討した結果、学校段階の移行に伴って変化することを明らかにしている。しかし、その変化の仕方は内発から外発動機づけへというような単純なものではなく、学校段階による違いは大きくなると示している。そして、大学生ではいくつかの動機づけが同時に働いて学習に取り組んでいる(岡田、2010)と示し、市川(2008)と類似する見方を提示しているが、その後の実証的検討は見当たらない。

このように、市川(2008)、岡田(2010)の見解から学習動機づけは、外発、或いは、内発のみ存在するのではなく、学習者側には複数の動機要因があり、重点の置き方に強弱があると考えられる。そのため、本研究にあたって、学習動機づけを類型化して行う必要があると思われる。大学生の学習動機づけの類型を知ることによって学習面やキャリア面において個別指導だけでなく集団指導をも効率よく行われる利点があると考えられる。よって、本研究では、学習者視点を重視する市川(2008)により開発された「学習動機づけ尺度」を用いて類型化を検討したい。

そして、岡田(2010)によると、大学生は興味にもとづく動機づけをもつようになるが、その一方で単位や就職のための手段として学習をとらえるようになる。さらに、大学生の学習動機づけは高校までと質的に異なり(畑野、2013)、これまでの上級学校への進学に向けて学習という意味合いが失われ、キャリアの視点から学習を意味づけ、学習を通じてキャリア意識を形成する(溝上、2009)ようになる。森田(2013)は、「就職を決めれば企業が育成してくれて、定年まで雇用を約束してくれた時代ではなくなり、大学教育と職業生活の

関係がどうあるべきか、今後これまで以上に問われてくることになる」と示している。さらに、文部科学省（1999）より、「学校教育と職業生活との接続に課題がある」と示していることから、大学生の学習動機づけを検討する際には、職業観との関連について研究を行うことが不可欠になっている。

職業観については、国内外で多くの研究が知られている。職業選択・発達理論についての研究（Ginsberg, E. at all, 1951; Super, D.E, 1955）、職業レディネスの研究（Crites, 1965）、職業志向の研究（Brenner & Tomkiewicz, 1982）、職業的価値の研究（Rosenberg, M, 1957）などが挙げられる。また、国内の職業観に関する研究は大きく2つのパターンに分けられる。一つは、早期の尾高（1941）による職業の定義を用いることで大学生の職業観を把握する試みである。その後も多くの概念の整理の研究（三隅・矢守、1993；松本、2008）が見られている。もう一つは、職業的価値観をめぐる諸研究で、時代ごとや対象による職業価値観の検討（柴山・林、1984；谷田、2007）と職業価値観と属性要因や家族要因など関連要因を探る研究（中里、2005）がある。

その中、職業価値観の検討として、柴山・林（1984）は職業生活に対する考え方、希望する職種・職場の条件、職務内容への志向性の計120項目を用いて工科系大学生を対象に職業観を分析する際の基本次元となり得る詳細な項目を検討した。しかしながら、工科系以外の学生に関する研究が必要であると思われる。また、大学への女子の進学率が上昇傾向にあること、女性の社会参画・活躍が期待されている（文部科学省、2012）ことから、女子大学生の学ぶ動機と職業観との関連を検討することは、就労環境の変化が大きい近年において重要なテーマであると考えられる。

以上の問題を踏まえて、本研究では、女子大学生を対象に、学習動機づけの類型化を試み、職業観との関連を通してその特徴を検討することを目的とする。同時に学年によって差があるかどうかを検討する。本研究により、応用教育心理学的視点から女性の社会での活躍を後押しするための大学教育と職業接続に有益な示唆が得られるものと考えられる。

## 方 法

### 調査実施方法と倫理的配慮

平成26年の7月から9月にかけて九州地域にある1年生から3年生の文系女子大学生326名を対象に質問紙調査を行った。なお、実施においては倫理的配慮を行うため、調査目的、方法、個人が特定されることがないこと、無記名形式で行うこと、正解・不正解はないこと、成績と無関係であることなどを事前に説明を行った上で、同意を得られた学生にのみ質問紙を配布し、調査を行った。研究分析は回答に不備があった33名を除いた293名を対象とした。平均年齢19.17（SD=1.25）歳であった。なお、本研究の分析にはSPSS（Ver22）を用いた。

### 調査内容

**フェイスシート** 年齢、学年の記入を求めた。

**学習動機づけの測定について** 市川（1995）は、より多様な学習理由を測定できる尺度として「充実志向」「訓練志向」「実用志向」「関係志向」「自尊志向」「競争志向」の6因子36項目で構成された「学習動機づけ尺度」を開発したが、相関係数がやや低いことが指摘されている。なお、堂山（2010）は市川（1995）の尺度を使用し、調査を行った結果、市川（1995）の6因子が確認できず、「内容志向」「関係志向」「学歴志向」「同調志向」「競争志向」の5因子の30項目が抽出され、信頼性が得られている。そこで、本研究では、市川（1995）が作成した尺度を基に堂山（2010）が調査を行い、信頼性が得られた因子負荷量が高かった30項目を選んだ項目を使用した。調査は「5. そう思う—1. そう思わない」の5件法で行った。

**職業観の測定について** 柴山・林（1984）は、工科系大学生を対象に「職業生活に対する考え方」に関する37項目、「希望する職業・職場の条件」30項目、「職務内容への志向性」53項目の計120項目を用いて職業観の構造について検討を行った。結果、「伝統的・保守的生活観」「金銭重視の生活観」「マイホーム主義的生活観」「精神的に満足のいく職業・職場」「安定した社会的評価の高い職業・職場」「収入や成功・昇進のチャンスの多い職業・職場」「人を相手にする仕事への志向」「複雑で相違・工夫が求められる仕事への志向」「公務員・教員志向」「事務的な仕事への志向」「変化に富んだ仕事への志向」と全11因子が抽出され、職業観を分析する際の基本次元となる可能性が示唆された。ただし、工科系大学生が対象だったこと、項目数が多く、調査対象者への負担を考慮し、本研究では、この尺度から文系女子大学生用に適した項目32項目を選んだものを使用した。調査は「5. 非常にそう思う—1. 全くそう思わない」の5件法で行った。

## 結 果

### 二つの尺度の得点の検討

学習動機づけ測定尺度について主因子法、Promax回転を行い、因子負荷量が.30以上ある項目をもとに、因子の解釈可能などから最終的に6因子解が抽出された（Table1）。第1因子から第6因子まで順に「外発自尊」、「関係性」、「実用性」、「内発動機」、「外発報酬」、「訓練性」と命名した。 $\alpha$ 係数は.85から.74が得られて信頼性が検証された。各下位因子の記述統計量をTable2に示した。

職業観測定尺度について主因子法、Promax回転を行い、因子負荷量が.30以上ある項目をもとに、因子の解釈可能などから最終的に7因子解が抽出された（Table3）。第1因子から第7因子まで順に「対人関連志向」、「心理充足志向」、「クリエイティブ志向」、「公務員・教員志向」、「事務関連志向」、「安定的志向」、「個性発揮志向」と命名した。 $\alpha$ 係数は.87から.69が得られて信頼性が検証された。各下位因子の記述統計量をTable4に示した。

Table1 学習動機づけの因子分析結果

| 項 目                                      | F1         | F2         | F3         | F4         | F5         | F6         |
|--|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| <b>第1因子:外発自尊 <math>\alpha=.85</math></b> |            |            |            |            |            |            |
| テストで成績がいいと親や先生にほめてもらえるから。                | <b>.83</b> | .12        | .20        | .08        | .01        | -.01       |
| 成績が良ければ仲間から尊敬されるから。                      | <b>.67</b> | .34        | .04        | .11        | .08        | .05        |
| ライバルに負けたくないから。                           | <b>.62</b> | .06        | .23        | .09        | .15        | .01        |
| 勉強が人並みにできないと自信がなくなってしまうから。               | <b>.51</b> | .34        | .16        | .16        | .27        | -.08       |
| 成績が良ければ小遣いや褒美がもらえるから。                    | <b>.50</b> | .20        | -.09       | -.09       | .06        | .15        |
| 親や好きな先生に認めてもらいたいから                       | <b>.50</b> | .26        | .27        | .10        | .08        | .16        |
| 勉強が人並みにできないのは悔しいから。                      | <b>.49</b> | .23        | .29        | .21        | .32        | -.18       |
| 勉強しないと親や先生に叱られるから。                       | <b>.44</b> | .37        | -.15       | -.19       | .17        | .06        |
| <b>第2因子:関係性 <math>\alpha=.87</math></b>  |            |            |            |            |            |            |
| 勉強しないと親や先生に悪いような気がして                     | .40        | <b>.46</b> | .11        | .02        | .15        | .04        |
| 周りの人たちが勉強するのでそれにつられて                     | .27        | <b>.87</b> | .13        | -.12       | .09        | .09        |
| みんながやるから何となく当たり前に思っ                      | .22        | <b>.82</b> | .05        | -.06       | .07        | .05        |
| みんながやることをやらないと可笑しいような気がして                | .36        | <b>.75</b> | -.01       | -.12       | .09        | .05        |
| <b>第3因子:実用性 <math>\alpha=.80</math></b>  |            |            |            |            |            |            |
| 勉強しないと将来仕事の上で困るから                        | .08        | .11        | <b>.74</b> | .04        | .24        | .13        |
| 学んだことを将来の仕事にいかしたいから                      | .12        | .01        | <b>.66</b> | .14        | .02        | .17        |
| 勉強で得た知識はいずれ仕事や生活の役に立つから                  | .03        | .07        | <b>.61</b> | .33        | .12        | .09        |
| 仕事で必要になってから勉強したのでは遅いから                   | .14        | .01        | <b>.60</b> | .04        | .11        | .08        |
| 勉強したことは生活の場面で役に立つから                      | .09        | .03        | <b>.49</b> | .37        | .06        | .15        |
| <b>第4因子:内発動機 <math>\alpha=.78</math></b> |            |            |            |            |            |            |
| 新しいことを知りたいと思う気持ちから                       | .05        | -.02       | .05        | <b>.79</b> | -.04       | .06        |
| いろいろな知識を身につけた人になりたいから                    | .02        | .00        | .11        | <b>.70</b> | .05        | .00        |
| 何かができるようになるのは楽しいから                       | .08        | -.04       | .11        | <b>.62</b> | -.02       | .12        |
| いろいろな面から物事が考えられるようになるため                  | -.04       | -.15       | .17        | <b>.54</b> | .04        | .16        |
| わからないことはそのままにしておきたくないから                  | .08        | -.06       | .13        | <b>.48</b> | -.11       | .28        |
| <b>第5因子:外発報酬 <math>\alpha=.86</math></b> |            |            |            |            |            |            |
| 学歴がいい方が社会に出てからも得なことが多い。                  | .18        | .06        | .18        | .01        | <b>.80</b> | .18        |
| 学歴があれば大人になって経済的に良い生活ができる。                | .17        | .11        | .14        | -.02       | <b>.76</b> | .12        |
| 学歴がよくないと大人になっていい仕事先がないから。                | .10        | .13        | .13        | -.05       | <b>.74</b> | .07        |
| <b>第6因子:訓練性 <math>\alpha=.74</math></b>  |            |            |            |            |            |            |
| 学習の仕方をみにつけるため                            | .08        | .13        | .28        | .13        | .09        | <b>.67</b> |
| 勉強することは頭の訓練になると思うから                      | .04        | .17        | .18        | .15        | .14        | <b>.66</b> |
| 合理的な考え方ができるようになるため                       | -.02       | -.08       | .09        | .36        | .12        | <b>.57</b> |
| 因子間相関                                    | F1         | .62        | .32        | .11        | .38        | .19        |
|  | F2         |            | .17        | -.09       | .30        | .16        |
|  | F3         |            |            | .36        | .32        | .39        |
|  | F4         |            |            |            | .01        | .38        |
|  | F5         |            |            |            |            | .27        |

Table2 各下位因子の基本統計量

|      | <i>Mean</i> | <i>SD</i> |
|------|-------------|-----------|
| 内発動機 | 4.24        | 0.55      |
| 訓練性  | 3.60        | 0.79      |
| 実用性  | 4.16        | 0.70      |
| 関係性  | 2.68        | 1.02      |
| 外発自尊 | 2.77        | 0.84      |
| 外発報酬 | 3.47        | 1.02      |

Table3 職業観の因子分析結果

| 項 目  | F1   | F2   | F3   | F4   | F5   | F6   | F7   |
|--|------|------|------|------|------|------|------|
| <b>第1因子: 対人関連志向 <math>\alpha=.87</math></b>    |      |      |      |      |      |      |      |
| できれば人を監督したり統率していきような仕事をしたい。                    | .76  | .12  | .13  | .10  | .06  | -.11 | .12  |
| 将来、何人かの部下を管理統率していきける自信がある                      | .71  | -.04 | .22  | .11  | .17  | -.19 | .15  |
| たとえ苦労は多くても、権力が持てるような仕事をしたい。                    | .67  | -.08 | .09  | .06  | .23  | -.07 | .27  |
| 人と会ったり、話をしたりする機会が多い仕事につきたい。                    | .63  | .26  | .23  | .13  | -.29 | .09  | .07  |
| 努力さえすれば、一流の営業マンとしてやっていきける自信がある。                | .63  | .05  | .25  | .07  | .16  | -.05 | .14  |
| 人を説得したり勧誘したりすることに、興味がある。                       | .62  | .02  | .22  | .06  | .03  | .06  | .16  |
| 自然や機械など相手にするより人間を相手にする仕事をしたい。                  | .55  | .24  | .18  | .12  | -.20 | .09  | .09  |
| 将来は、技術者よりも、会社の経営陣の一員として手腕を発揮したい。               | .47  | -.02 | .13  | .12  | .30  | .03  | .13  |
| 教育関係の仕事をしたい。                                   | .44  | .30  | .01  | .61  | -.31 | .00  | .04  |
| <b>第2因子: 心理充足志向 <math>\alpha=.83</math></b>    |      |      |      |      |      |      |      |
| 多少収入は低くても、自分の能力や個性をフルに発揮できる職場へ就職               | -.04 | .79  | .20  | -.01 | -.11 | -.05 | .08  |
| 昇進や成功のチャンスが少なくても、世の中のために役立つ仕事                  | .22  | .71  | .06  | .13  | -.09 | -.05 | .01  |
| 経済的にそれほど恵まれてなくても、世の中のためにつくせる仕事                 | .22  | .70  | .04  | .09  | -.08 | .04  | .05  |
| 多少収入は低くても、暖かい人間味ある職場へ就職したい。                    | -.17 | .69  | .05  | .07  | -.05 | .10  | -.02 |
| <b>第3因子: クリエイティブ志向 <math>\alpha=.84</math></b> |      |      |      |      |      |      |      |
| つねにアイデアや独創性が求められる仕事をしていきたい。                    | .22  | .09  | .81  | .05  | .07  | -.10 | .14  |
| 日々、内容が変化に富んだ仕事をしたい。                            | .28  | .16  | .72  | -.02 | -.02 | -.08 | .12  |
| 決められた仕事より、創意工夫が求められるような仕事をしたい。                 | .17  | .18  | .66  | .06  | .15  | -.08 | .06  |
| 決まった内容を毎日くり返す仕事は、自分には耐えられない。                   | .26  | .01  | .58  | .03  | -.07 | -.09 | .01  |
| <b>第4因子: 公務員・教員志向 <math>\alpha=.77</math></b>  |      |      |      |      |      |      |      |
| できれば公務員になりたい。                                  | .10  | .06  | .02  | .86  | .03  | .24  | .08  |
| できれば公務員として専門関係の仕事をしていきたい。                      | .07  | .01  | .10  | .75  | .04  | .19  | .10  |
| 学校の教師は、自分にとって魅力ある職業の1つである。                     | .37  | .31  | -.02 | .59  | -.22 | -.02 | -.01 |
| <b>第5因子: 事務関連志向 <math>\alpha=.88</math></b>    |      |      |      |      |      |      |      |
| いわゆる現場の仕事よりも、事務所内でする仕事をしたい。                    | -.19 | -.07 | -.21 | -.01 | .67  | .15  | -.02 |
| 体をつかう仕事よりも、頭をつかうことの多い仕事をしたい。                   | .14  | -.02 | -.01 | -.05 | .54  | -.07 | -.01 |
| 書類の作成、簡単な経理など、一般的事務処理能力には自信がある。                | .05  | -.01 | .20  | -.04 | .53  | .00  | .03  |
| 美しいオフィスで仕事ができる職業につきたい。                         | .16  | -.14 | .11  | -.06 | .49  | .22  | .09  |
| 自分の個性や能力の発揮より収入の高さや安定性の方を重視したい。                | .10  | -.30 | -.12 | .19  | .40  | .38  | .16  |
| <b>第6因子: 安定的志向 <math>\alpha=.70</math></b>     |      |      |      |      |      |      |      |
| 仕事内容は平凡でも、安定した失業の怖れのない職場へ就職したい。                | -.15 | .01  | -.12 | .18  | .03  | .84  | -.05 |
| 昇進成功のチャンスが少なくても、雇用が安定し失業の怖れのない職業               | -.14 | .07  | -.09 | .10  | -.01 | .75  | -.12 |
| 仕事の内容が平凡でも、世間体(社会的評価)のよい職業                     | .16  | -.03 | -.10 | .09  | .17  | .44  | .14  |
| <b>第7因子: 個性発揮志向 <math>\alpha=.89</math></b>    |      |      |      |      |      |      |      |
| 労働時間が長くても、昇進や成功のチャンスが多い仕事につきたい。                | .27  | .15  | .14  | .09  | .03  | -.04 | .73  |
| たとえ仕事がつくても、高い収入のかせげる職業につきたい。                   | .29  | -.19 | .04  | .08  | .04  | .21  | .63  |
| 同僚と競争が激しくても自分の能力や適性が生かせるような職業                  | .28  | .31  | .20  | .04  | .00  | -.15 | .48  |
| 大企業で歯車として動くより、中小企業で能力や個性が発揮できる職場               | .11  | .33  | .07  | .07  | .11  | -.10 | .30  |
| 因子間相関  | F1   | .26  | .46  | .47  | .02  | -.08 | .49  |
|  | F2   |      | .24  | .28  | -.20 | .01  | .24  |
|  | F3   |      |      | .17  | -.01 | -.20 | .32  |
|  | F4   |      |      |      | -.05 | .21  | .25  |
|  | F5   |      |      |      |      | .21  | .08  |
|  | F6   |      |      |      |      |      | -.02 |

Table4 各下位因子の基本統計量

|              | Mean | SD   |
|--------------|------|------|
| 対人関連の仕事志向    | 2.87 | 0.81 |
| 心理充足の仕事志向    | 3.76 | 0.80 |
| クリエイティブな仕事志向 | 3.17 | 0.90 |
| 公務員・教員の仕事志向  | 3.57 | 1.05 |
| 事務関連の仕事志向    | 3.17 | 0.73 |
| 安定的な仕事志向     | 3.72 | 0.74 |
| 個性的な仕事志向     | 3.46 | 0.74 |

### クラスター分析による学習動機づけの検討

学習動機づけの類型化を行うため、各下位尺度得点を標準化したものを変数として、ユークリッド距離の2乗をもとにWard法による探索的にクラスター分析を行った。クラスター数を変えて分析した各結果を検討し、群の解釈可能性から4つのクラスターを抽出するのが妥当であると判断した。

また、学習動機づけの4つの類型を正確に検討するために、4つのクラスターを独立変数とし、学習動機づけ得点を従属変数とし一要因の分散分析を行った。学習動機づけ得点においてクラスター間に有意差 ( $F(3,289) = 141.57, P < .001$ ) が見られたため、TukeyのHSD検定による多重比較を行った。結果、クラスターIIがクラスターIと、クラスターIIがクラスターIIIと、クラスターIIがクラスターIVと、クラスターIVがクラスターIIIとそれぞれ0.1%水準で有意差が見られ、類型の正確性の検討ができた。Figure1では各クラスター群の標準化した平均得点を示した。

クラスターIは51人(17%)で、内発的動機の要因の得点が高く、学ぶ行動に大いに喜びを感じていることから「内発動機優位群」と解釈した。クラスターIIは125人(43%)で、すべての要因の得点が平均より高かったため「総合動機高群」と解釈した。クラスターIIIは60人(21%)で、すべての要因の得点が平均より低かったため「総合動機低群」と解釈した。クラスターIVは57人(19%)で、関係性と外発自尊の得点が平均より著しく低く、学習行動は将来実際に役に立つための手段であると認識していることから「実利動機優位群」と解釈した。

### 学習動機づけ4つの類型と職業観との分散分析

学習動機づけの4つの類型と職業観との関連を検討するため、クラスターを独立変数、職業観の全体平均得点および下位尺度を従属変数とし一要因分散分析を行った(Table5)。その結果、職業観全体平均得点においてクラスター間に有意差 ( $F(3,289) = 16.95, P < .001$ ) が示されたため、TurkeyのHSD検定による多重比較を行った。その結果、「総合動機高群」が「内発動機優位群」との間に1%水準で有意差が見られ、「総合動機高群」と「総合動機低群」、「実利動機優位群」と「総合動機低群」との間において、それぞれ0.1%水準で有意差が示された。そして、「心理充実志向」以外の職業観の6つの下位因子においてはそれぞれTable5に示した通り、群間での有意差がみられた。

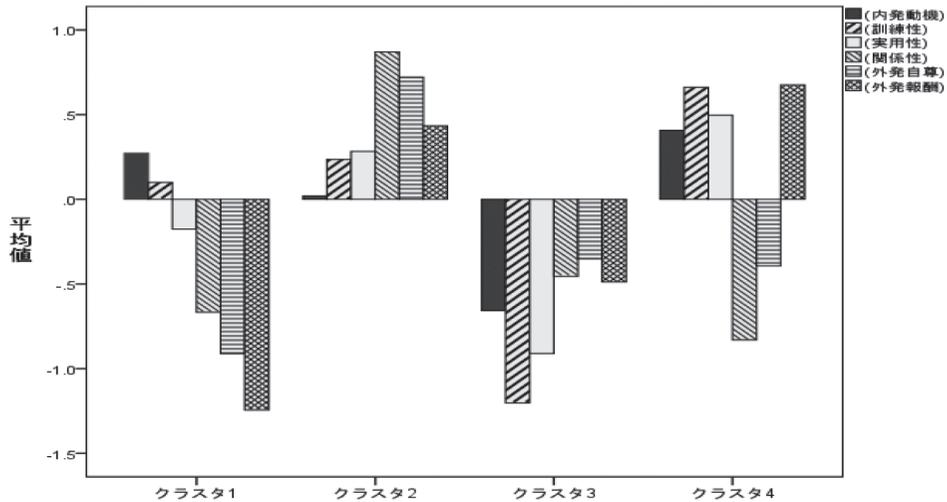


Figure1 学習動機づけの4つのクラスター

Table5 クラスターと職業観との平均値（標準偏差）と分散分析

|           |    | クラスター I<br>n=51 | クラスター II<br>n=125 | クラスター III<br>n=60 | クラスター IV<br>n=57 | F 値      | 多重比較                    |
|-----------|----|-----------------|-------------------|-------------------|------------------|----------|-------------------------|
| 対人関連志向    | M  | 2.77            | 3.09              | 2.39              | 2.96             | 11.81*** | III < I * III < II ***  |
|           | SD | .76             | .70               | .76               | .94              |          | III < IV ***            |
| 心理充足志向    | M  | 3.85            | 3.77              | 3.58              | 3.86             | 1.49 ns  | ns                      |
|           | SD | .85             | .74               | .72               | .93              |          |                         |
| クリエイティブ志向 | M  | 3.27            | 3.21              | 2.83              | 3.36             | 4.08***  | III < I *, III < II *   |
|           | SD | .80             | .81               | .99               | 1.01             |          | III < IV **             |
| 公務員・教員志向  | M  | 3.44            | 3.82              | 3.06              | 3.69             | 8.38***  | III < II ***            |
|           | SD | 1.12            | .90               | 1.06              | 1.07             |          | III < IV **             |
| 事務関連志向    | M  | 2.82            | 3.36              | 3.13              | 3.11             | 7.34***  | I < II ***              |
|           | SD | .81             | .67               | .60               | .78              |          |                         |
| 安定的志向     | M  | 3.46            | 3.89              | 3.55              | 3.77             | 5.74**   | I < II ** III < II *    |
|           | SD | .90             | .60               | .75               | .75              |          |                         |
| 個性発揮志向    | M  | 3.40            | 3.56              | 3.15              | 3.65             | 5.71**   | III < II ** III < IV ** |
|           | SD | .79             | .67               | .71               | .79              |          |                         |
| 職業生活観全体   | M  | 3.29            | 3.53              | 3.10              | 3.48             | 16.95*** | I < II ** III < II ***  |
|           | SD | .36             | .43               | .36               | .46              |          | III < IV ***            |

\*\*\* $P < .001$  \*\* $P < .01$  \* $P < .05$ 

### 学年による検討

まず、学習動機づけ4つの類型と学年において連関があるかどうかを検討するために $\chi^2$ 検定を行った。結果をTable6に示した。「内発動機優位群」の出現率は3年生が高く、1年と2年生が低く、「総合動機高群」の出現率は1年生が高く、2年生が低いことが示された。また、「総合動機低群」の出現率は2年生が高く、1年生が低いことが示された。さらに、「実利動機優位群」の出現率は1年生と3年生が低いことが示された。

次に、職業観に関する意識は学年差があるかどうかを検討するため、学年を独立変数、職業観の全体平均得点および下位尺度を従属変数とし一要因分散分析を行った (Table7)。結果、職業観全体平均得点において学年間に有意差 ( $F(2,290) = 6.81, P < .01$ ) が示された

ため、TurkeyのHSD検定による多重比較を行った。その結果、1年生が2年生との間では5%水準で有意差が見られ、また3年生との間では1%水準で有意差が見られ、1年生の職業観が高いことが示された。下位因子においては、「心理充足志向」「クリエイティブ志向」「安定的志向」「個性発揮志向」では学年による差が示されなかったが、他の因子では、Table7で示したように有意差が示された。

Table6 クラスタと学年の $\chi^2$ 検定

|       |          | クラスタ   |         |          |         | Total  |
|-------|----------|--------|---------|----------|---------|--------|
|       |          | クラスタ I | クラスタ II | クラスタ III | クラスタ IV |        |
| 1 年生  | <i>n</i> | 29     | 85      | 25       | 32      | 171    |
|       | %        | 9.90   | 29.00   | 8.50     | 10.90   | 58.40  |
|       | Adj      | -.20*  | 2.90**  | -2.90**  | -.40**  |        |
| 2 年生  | <i>n</i> | 9      | 16      | 17       | 14      | 56     |
|       | %        | 3.10   | 5.50    | 5.80     | 4.80    | 19.10  |
|       | Adj      | -.30** | -2.40*  | 2.00*    | 1.20    |        |
| 3 年生  | <i>n</i> | 13     | 24      | 18       | 11      | 66     |
|       | %        | 4.40   | 8.20    | 6.10     | 3.80    | 22.50  |
|       | Adj      | .60**  | -1.20   | 1.60     | -.60**  |        |
| Total | <i>n</i> | 51     | 125     | 60       | 57      | 293    |
|       | %        | 17.40  | 42.70   | 20.50    | 19.50   | 100.00 |

\*\* $P < .01$  \* $P < .05$

Table7 クラスタと職業観との平均値（標準偏差）と分散分析

|           |           | 1 年生          | 2 年生         | 3 年生         | F 値       | 多重比較                         |
|-----------|-----------|---------------|--------------|--------------|-----------|------------------------------|
|           |           | <i>n</i> =171 | <i>n</i> =56 | <i>n</i> =66 |           |                              |
| 対人関連志向    | <i>M</i>  | 3.00          | 2.71         | 2.65         | 5.84**    | 2 年生<1 年生*<br>3 年生<1 年生**    |
|           | <i>SD</i> | .76           | .91          | .81          |           |                              |
| 心理充足志向    | <i>M</i>  | 3.83          | 3.59         | 3.74         | 1.85 $ns$ | $ns$                         |
|           | <i>SD</i> | .81           | .81          | .76          |           |                              |
| クリエイティブ志向 | <i>M</i>  | 3.25          | 3.14         | 3.00         | 1.83 $ns$ | $ns$                         |
|           | <i>SD</i> | .88           | .96          | .93          |           |                              |
| 公務員・教員志向  | <i>M</i>  | 3.85          | 3.25         | 3.14         | 15.90***  | 2 年生<1 年生***<br>3 年生<1 年生*** |
|           | <i>SD</i> | .95           | .87          | 1.14         |           |                              |
| 事務関連志向    | <i>M</i>  | 3.07          | 3.27         | 3.33         | 3.80*     | 1 年生<3 年生*                   |
|           | <i>SD</i> | .76           | .64          | .69          |           |                              |
| 安定的志向     | <i>M</i>  | 3.75          | 3.61         | 3.72         | .84 $ns$  | $ns$                         |
|           | <i>SD</i> | .74           | .72          | .74          |           |                              |
| 個性発揮志向    | <i>M</i>  | 3.53          | 3.44         | 3.32         | 1.86 $ns$ | $ns$                         |
|           | <i>SD</i> | .74           | .74          | .72          |           |                              |
| 職業生活観全体   | <i>M</i>  | 3.47          | 3.29         | 3.27         | 6.81**    | 2 年生<1 年生*<br>3 年生<1 年生**    |
|           | <i>SD</i> | .43           | .45          | .41          |           |                              |

\*\*\* $P < .001$  \*\* $P < .01$  \* $P < .05$

## 考 察

本研究は女子大学生を対象に、学習動機づけの類型化を行い、職業観との関連性を通して特徴を検討することを目的とした。また、学年によって差があるかどうかを検討した。まず、

学習動機づけの4つの類型の特徴をみていくと、「内発動機優位群」は、「内発動機」と「訓練性」の2つの要因の得点が平均より高く、他の要因は平均より低かった。占める割合が最も少なく、大学生になると内発動機が低下し、外発動機が増すというHarter (1981)、岡田 (2010) 見解と類似の結果が得られた。「総合動機高群」では、すべての要因の得点が平均より高く、大学生では複数の動機づけが同時に働いて学習に取り組んでいると示した岡田 (2010) の見解が検証された。この類型の特徴としては、いずれの職業にも対応できるように「汎用性の高い能力」を修得しようとしている女子大学生の複合的な学習動機づけが反映されていることが窺える。「総合動機低群」では、すべての要因の得点が平均より著しく低く、全体的に学習意欲が乏しく、動機づけが低いことが示された。学習と将来展望において関連性を見出していない傾向が考えられる。つまり、目的が決まっておらず、周囲の進めなどにより大学に進学した可能性や学びに消極的である可能性が推測される。「実利動機優位群」では、「関係性」「外発自尊」の得点が平均より著しく低く、他の要因は平均より高かったのが特徴である。この類型の女子大学生は、交友などの関係性や学歴志向を重視するのではなく、自ら選択した学習行動は将来実際に役に立つための保障であり、よい職業生活を手に入れるための目的遂行の手段であると認識していることが示唆されている。

次に、女子大学生の学習動機づけの類型によって職業観に差異があることが明らかになった。全体においては、「総合動機高群」の職業観が最も高く、次が「実利優位群」「内発動機優位群」であり、「総合動機低群」が最も低かったことが検討できた。

具体的にみると、「総合動機高群」では、特に「対人関連志向」「公務員・教員志向」が有意に強く、1年次の出現率が高いことが示された。女子大学生の特徴的な傾向として人と関わる仕事に就きたい志向が示されたと言える。大学入学時は、高校での積極的進路指導を受けた影響が予想され、社会的に安定とみなされる職業選択が高かったと考えられる。また、様々な職業生活に汎用できる知識能力を身につけようとし、総合的な動機づけがあったことも考えられる。

しかし、2年次になると、「総合動機低群」の出現率が多くなり、1年次に比べて「公務員・教員志向」や「対人関連志向」の職業観が低下している。受験勉強から時間が経ち、大学生活にもなれ、自由な学び生活を送ることができ、プレッシャーが少なく、進路を考える意識が低下していることが予想される。また、大学での学びで幅広い情報と教育を受けることで、職業選択の可能性が広がり、公務員試験合格の難しさなどの認識から現実的な進路を考えるようになったため動機低群が増えたと推測される。よって、2年次は職業との接続への介入支援を行うことが望ましいと言える。

ところが、3年次では「内発動機優位群」の出現率が増えるかたわら、「事務関連志向」が強くなる傾向が明らかになった。内発動機が現れる学生には、2年次の葛藤から再び職業に対する意味を見出し、公務員・教員試験の競争に積極的に立ち向かおうとする志向が強くなる

なることが考えられた。しかし、多忙のイメージが強くなっている公務員・教員志向、対人関連志向は2年次から引き続き減少傾向がみられ、多くは事務関連志向が有意に高くなることが示された。緩く働きたい(城島ら、2012)女子大学生の考えが明らかになった。社会での活躍が期待されているものの、仕事(キャリア)と家庭を両立することの難しさを女子大学生が認識し、葛藤を抱いている可能性が推測され、女子の社会進出のための課題点が浮上したと考えられる。

3つの学年において、唯一「心理的充足志向」では類型間有意差が見られなかった。やりがいのある仕事に就き、社会貢献を通じて心が満たされる職業観を持つ場合、学習動機づけは類型によって差がないことが明らかになった。学習に対する総合動機が低い女子大学生への支援として、世の中に役立つことで喜びを感じることで学ぶ意欲を高める可能性が示唆された。いわば、精神世界で満足を味わう教育システムを構築していくことが、動機づけを高める方法の一つであることが提示された。

最後に本研究の今後の課題について述べる。今回は、文系女子大学生を対象に検討を行ったが、男子も含めて検討を行う必要があり、また、一部の地域の学生のみを対象として行ったことから、今後は広い地域の中学生・高校生を対象を広げて検討を行いたい。心理充足を高めることが「総合動機低群」に対するアプローチの突破口となる可能性が考えられるが、具体的な介入方法については検討できなかったため、今後の課題としたい。また、「総合動機低群」には自己理解を深めて特性を見つけ出して発揮できるよう支援していく重要性も示唆された。ところが、本研究では調査対象者が女子大学生に限られていたため、男子を含めた調査を行い、性差の有無などについて検討する必要がある。ライフワークのバランスを重視する考えが増えている中、今後は、職業生活観について検討を行い、学習動機づけとの関連性をさらに詳しく、量質的に研究を蓄積していくことも課題としたい。

## 引用文献

- Bandura, A. (1977). Self-efficacy : Toward a Unifying Theory of Behavioral Change. *Psychological Review*, 84, 191-215.
- Brenne, o.c. and Tomkiewicz, J. (1982). Job orientation of black white college graduates in business. *Personnel Psychology*, 35, 89-103.
- Crite, s.J. O. (1965). Measurement of vocational maturity in adolescence : I. Attitudetest of the vocational development inventory. *Psychological Monographs : General and Applied*, 79 (2), 1-34.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1975). *Intrinsic motivation and self determination*. New York: Plemum Press.
- Deci, E. L., & Richard, F. (1995). *Why we do what we do: The dynamics of personal*

- autonomy. New York : Putnam's Sons. ( 櫻井 茂男 監訳) (1999). 人を伸ばす力—内発と自律のすすめ 新曜社)
- Dweck, C. S., (1986). Motivational processes affecting learning. *American Psychologist*, 41, 1040-1048.
- 堂山 明華 (2010). 高校生の学習の動機づけと将来展望に関する研究 東北大学大学院教育学研究年報、58 (2), 329-341.
- Ginsberg, E., Ginsburg, S. W., Axelrad, S., & Herma, J. L. (1951). Occupational choice: an approach to a general theory. New York, NY, US : Columbia University Press.
- Harter, S. (1981). A new self-report scale of intrinsic versus extrinsic orientation in the classroom: Motivational and information components. *Developmental Psychology*, 17, 300-312.
- 畑野 快 (2013). 大学生の自律的な学習動機づけの検討—学習・キャリアの変数との関わりから 青年心理学研究, 24, 137-148.
- 速水 敏彦 (1987). 学習動機づけに関する研究 名古屋大学紀要, 34, 15-23.
- Heider, F. (1958). *The psychology of interpersonal relations*. New York : Wiley. (大橋 正夫 (訳) (1978). 人間関係の心理学 誠信書房)
- 市川 伸一 (1995). 学習動機づけの構造と学習館との関連 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 177.
- 市川 伸一 (2008). 学ぶ意欲の心理学 PHP新書
- 市川 伸一 (2011). 現代心理学入門3 学習と教育の心理学増補版 岩波書店
- 伊田 勝憲 (2001). 課題価値評定尺度作成の試み 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 48, 83-95.
- 城島 博宣・白河 桃子・幸田 達郎・城 佳子 (2012). 女子大学生の結婚観と職業観の調査 文教大学生生活科学研究, 34, 149-158.
- 神谷 真由美・田村 徳至・昭二 和史・高野 恵代・水口 啓吾 (2014). 学習動機づけとキャリアへの意識との関連, 7, 45-52.
- 黒田 祐二 (2007). 動機づけ 堀 洋道 (監修) 櫻井 茂男・松井 豊 (編) 心理測定尺度集 IV 動機づけと学習 サイエンス社
- 松本 浩司 (2008). 高校生の職業観の構造と形成要因——職業モデルとの関連を中心に キャリア教育研究, 26, 57-67.
- 溝上 慎一 (2009). 「大学生生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討—正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す 京都大学高等教育研究, 15, 107-118.
- 三隅 二不二・矢守 克也 (1993). 日本人の勤労価値観—「第2回働くことの意味に関する

- 国際比較調査」から(日本の組織・制度の再点検<特集>) 組織科学, 26 (4), 83-96.
- 文部科学省 (1999). 初等中等教育と高等教育との接続の改善について 第6章学校教育と職業生活との接続 中央教育審議会 (答申)
- 文部科学省 (2012). 大学改革実行プラン—社会の変革のエンジンとなる大学づくり
- 森田 雅也 (2013). 職業生活からみた大学教育の意味 関西大学社会学部紀要, 44, 103-117.
- 中里 英樹 (2005). 若者の職業観の構造と規定要因—家族との関連に注目し 21世紀ヒューマンケア研究機構研究年報, 11, 97-107.
- 岡田 涼 (2010). 小学生から大学生における学修動機づけの構造的変化 教育心理学研究, 58, 414-425.
- 尾高 邦雄 (1941). 職業社会学 岩波書店
- 労働政策研究・研修機構 (2011). 第6回労働生活に関する調査
- Rosenberg, M. (1957). Occupations and Values, The Free Press, Glencoe, 1-35.
- 谷田 親彦 (2007). 大学生が希望する職業の価値感に関する分析—大学入学初期における教職志望大学生の期待価値 弘前大学教育学部紀要, 98, 59-65.
- 柴山 茂夫・林 文俊 (1984). 大学生の職業観の構造について (序報) —工科系学生を対象とした予備的検討 愛知工業大学研究報告A, 19, 1-9.
- Super, D. E. (1955). Dimensions and measurement of vocational maturity. Teachers College Record, 57, 151-163.
- Weiner, B. (1990). History of motivation research in education. Journal of Educational Psychology, 82, 616-622.
- Young, P.T. (1961). Motivation and emotion. New York: Wiley.

## **Empirical studies on categorizing learning motivation and vocational values view**

Enka TOMONO

Faculty of Humanities, Department of Education and psychology,

Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

### **Abstract**

This study examines characteristics of vocational values by categorizing learning motivation, and examines whether there are differences depending on grade level. A questionnaire survey was conducted on 293 college women. Cluster analysis categorized learning motivation into four group types: “spontaneous motivation” , “high comprehensive motivation” , “low comprehensive motivation” , and “practical motivation” . Factor analysis results indicate seven factors in vocational values. In 1st grade, the rate of “high comprehensive motivation” group is high, and “interpersonal oriented” , “civil servant and teacher oriented” is significantly high, but in 2nd and 3rd grade, these rates decrease and comprehensive motivation becomes lower. In 3rd grade, from the perception of reality, “clerical work oriented” becomes higher. In the case of “psychological satisfaction oriented” , there is no significant difference between categories, and those who seek mental satisfaction such as social contribution for a vocational values are unlikely to change their motivation. It is suggested that educational support and intervention for connection with occupation is desired from 2nd grade in the “low comprehensive motivation” group because they have a passive attitude to learning and motivation is low.

**Key words** : college women, learning motivation, vocational values, cluster analysis categorizing